

天童市国土利用計画(第五次計画)の概要

1. 市土利用の現状

1. 人口減少による市土の管理水準の低下

・市街地において、人口密度の低下による空き家の増加が進行し、土地利用の効率低下が懸念される。

・田園集落において、高齢の農業就業者の離農等による農地の荒廃や森林の荒廃により、農地や森林の管理水準が低下することが懸念される。

⇒市土の適切な利用と管理を通して市土を荒廃させない取組が特に重要となる。

2. 市土における災害リスクの増大

・近年、全国的に気候変動の影響とみられる豪雨などの自然災害が頻発化・激甚化している。

・今後も大規模地震の発生や局地的な降水の頻発化による水害・土砂災害の発生が予測される。

⇒安全性を優先的に考慮する市土利用への転換が急務となる。

3. 自然環境と美しい景観等の悪化

・市土の東側半分の山間部や中央部の「出羽の三森」など、多様で美しい自然環境を日々の生活との関わりの中で育んできた。

・人口減少により良好に管理されてきた自然環境や景観が悪化するなど、魅力ある地域の維持に大きな影響が生じる懸念がある。

⇒持続可能で豊かな暮らしを実現する市土利用を進めていく視点が重要となる。

2. 市土利用の基本方針

安全性を高めて持続可能で豊かな市土を目指すため、持続可能な開発目標（SDGs）の考えに基づいて環境・社会・経済の統合的向上を図るとともに、長期的な視野に立ち、総合的かつ計画的にレジリエンスの高いまちづくりを推進する

1. 人口減少下における市土の適切な利用と管理

・居住や都市機能を街なか集約するとともに、中心市街地の再生や空き地、空き店舗を活用したまちづくりを進め、コンパクトで魅力ある都市の形成を図る。

・農地の集積・集約化などで農業の生産基盤を整備することにより、遊休農地の発生防止・解消を図るとともに、森林の整備及び保全を進めて水源のかん養など農地や森林の有する公益的機能の発揮を図る。

2. 災害に強い安全・安心な市土づくり

・ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせた防災・減災対策を実施し、災害リスクの把握と周知を図る。

・土砂災害等の災害リスクの高い地域における土地利用を適切に制限し、住宅や都市機能をより安全な地域に誘導する取組を進めることが重要となる。

・自然生態系の持つ土砂崩れや洪水の防止等の機能を維持・活用し、災害に強いしなやかな市土の形成を図る。

3. 将来世代に引き継ぐ優れた自然環境と美しい景観

・循環型社会への転換を推進し、水資源の安定的な確保と水質保全を図り、健全な水循環系を維持する。

・ゼロカーボン社会の実現に向け、自然環境等に配慮した上で再生可能エネルギーの導入拡大を図る。

・自然、歴史、文化等に根差した美しい景観を保全・形成するため、新たな魅力ある景観の創出に取り組み、地域づくりやまちづくりの積極的な推進を図る。

3. 地域別の概要

1. 中部地域

低未利用地や空き家等の活用を積極的に進めるとともに、中心市街地に商業施設、公共施設、住宅などの多様な機能の集積を進め、環境負荷の少ない安全で暮らしやすい集約型都市構造の構築を目指す。

2. 東部地域

観光農業や生産基盤の整備を通じた農林畜産業の振興など、地域の定住化・活性化に向けた土地の利活用や地域住環境の整備を計画的に促進するとともに、野生鳥獣と人間活動の緩衝地域として里山の森林地域の適切な管理に努める。

3. 西部地域

安定した農業の担い手を確保するために、農地の大区画化等による農地の集積・集約を推進しつつ、農業的土地利用との調整を図りながら新たな土地利用による地域経済の活性化や交流人口の拡大を誘起していく。

4. 山間地域

森林資源の積極的な活用を図りながら既存集落の地域活動や農業生産活動を維持・継続する取組への支援を行うとともに、自然資源を生かしたレクリエーションの場として天童高原スキー場やキャンプ場の利活用を促す。

4. 利用区分ごとの規模の目標

区 分	令和2年 (ha)	令和14年 (ha)	構成比(%)	
			令和2年	令和14年
農 用 地	3,480	3,414	30.8	30.2
森 林	3,777	3,777	33.4	33.4
水面・河川・水路	342	340	3.0	3.0
道 路	715	722	6.3	6.4
宅 地	1,417	1,477	12.6	13.1
そ の 他	1,570	1,572	13.9	13.9
合 計	11,301	11,302	100.0	100.0
(参考)市街地	1,130	1,130	10.0	10.0